



スマイル天神 No.45



令和5年2月21日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

子どもが反抗期になったら…

先日の、新入学児童保護者説明会で、岩崎勢智子先生を講師にお招きして、子育て講演会を実施した際、保護者の方に感想を記入していただきました。一番多かった悩みが、「子どもが反抗期になった時の親の対応」でした。講演会の感想にいただいたことに、私が自分の思いや考えをお伝えするのは出過ぎたこととも思ったのですが、子育てを行い、同じように悩みを持った親として、何か参考になることがあればと思いました。



基本的な心づもりとして、「どの子にも、大なり小なり、反抗期は訪れる」・「反抗期を迎えたら、我が子も成長したと、安心していい」と思っていていいと思います。反抗期は、「価値観の大きな変化」であり、「自立心の大きな成長」であり、どちらも、とても大切です。親としては、本当に大変です。親の都合通りにいかず、親自身が苦労するからです。

今までかっこいい・好きだと思っていたものが大きく変わります。音楽・本・趣味・人…。人からどう思われるかを気にする、気にできるようになることも一つの要因かもしれません。これによって、価値観の多様性を学んでいくと思います。

自立心の大きな成長は、子どもがいずれ一人で生きていくための準備です。子ども自身が苦しいのは、「独り立ちしたいのに、独り立ちする力がまだない」ということです。親から見ても生意気に思えます。ちなみに、私は中学3年生ぐらいから高校3年生ぐらいまで反抗期でした。親の言う通り、決めたとおりにすることが嫌でした。親と同じ考えであっても、親から先に言われたら、すごく嫌でした。家族で四力町アーケードを歩く機会があった時、私は必ず父の横を歩きました。母親の隣だと、母親から自立していない、幼い男、一人前になり切れていない男だと思われるのが嫌だったからです。

多分、反抗期が終わったのは、高校3年最後の頃です。大学進学が決まってほっとしたのでしょう。堰（せき）を切ったように、ぺらぺらと両親に色々話をしたそうです。そのとき、母から「あんた、この2年間ぐらい、おはよう・いただきます・ごちそうさま・いただきます・ただいまぐらいしか、しゃべらんやったとよ。」と言われました。

大学に進学して独り暮らしするようになって両親・家族のありがたさを感じるようになりました。車の免許を取ったばかりの時に、大学が休みで帰省した平日、母が行きたいと言っていたところに、車を運転し、買い物や食事に二人で行けるようになりました。

両親は反抗期で生意気だった私をいつも見守ってくれていたのだと後から気付きました。子育て講演会で話された岩崎先生の話、「赤ん坊の時は肌を離すな。幼児の時は手を離すな。子どもの時は目を離すな。少年の時は心を離すな。」ですね。親として本当に辛く、腹が立つ時ですが、我が子を信じること・親は絶対に心を開いておくことが大切だと思います。

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～⑥いての目を見て ⑦ぶんから ⑧わやかな声で ⑨つでも・どこでも・誰にでも